

ふるさと再発見

濟衆館跡と量石

城内二丁目、島原藩の医学学校として「濟衆館」がありました。

濟衆館は、文政四年(1821年)、藩の学校であった「稽古館」から医学部門を独立して開校したもので、領内の医学の振興に大きく貢献しました。教授には、人体解剖を行った市川泰朴やシーボルトの門人である賀来佐之などがあたり、オランダの医学を取り入れた治療も行われていたようです。嘉永二年(1849年)には当時の教授たちにより、広く領民に種痘が行われました。この時代では先駆的なことでした。



島原藩の医学の発展に貢献したこの学校も、廃藩置県により廃校となりましたが、もともとは「常盤御茶屋」という藩主の別邸で、今も残る石垣と庭園が当時の偲ばせています。

庭園から出る湧き水を利用したきれいな池は「御茶屋池」と呼ばれ、今でも親しまれています。

この池から水が流れ落ちる所に正方形の石があります。この石が「量石」です。量石は、真ん中がくり抜かれ、南北に伸びる水路の水量を調節するための切り込みが入っています。今でも付近の田で利用され、平成11年に市の有形民俗文化財として指定を受けました。

クローズアップ

Close Up!



高野地区ホタルの里づくり保存会

4月29日「高野地区ホタルの里づくり保存会」の皆さんが「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞しました。

「高野地区ホタルの里づくり保存会」は、ホタルが飛び交っていた、昔のきれいな湯江川の復活を目指し、平成元年に20人のメンバーで結成されました。

主な活動は、川周辺の清掃活動と看板設置などによる環境美化に対する普及啓発活動を行っています。最初は大人だけの活動だったそうですが、平成2年からは高野小学校ホタルクラブも一緒に活動を行い、平成19年からは第四小学校と合同で、勉強会や種ホタルの採取を行っており、環境学習にも役立っています。

保存会を始めとした地域の皆さんの努力で、年々ホタルの数は増加しており、毎年5月のホタルまつりでは、幻想的な光景が多くの人々の目を楽しませているそうです。

代表の黒田孝博さんは「最初は汚れていた川も、今ではホタルがたくさん生息できるくらいきれいになりました。多くの人に喜んでもらえるし、何より子どもたちの笑顔が見られるのが嬉しいです。また、多くの方が環境美化へ関心を持ち、島原がきれいな街になればいいですね」と話してくれました。

生活排水が周辺環境へ影響を与える場合もあります。みなさんも、きれいな街づくりのためにできることから始めてみましょう。

